



ひらつからいちょう

平塚雷鳥の女性解放運動は、どんな運動だったの



女性の解放と地位の向上、世界の平和などをうったえた運動だよ。

平塚雷鳥(らいてう)は1886年に、東京で生まれました。本名は明、父は会計検査院につとめる役人です。日本女子大学校に入学して、哲学・宗教の書物を読みあさりました。卒業後は、津田英学塾などで英語を学び、また、若い作家たちと知り合って、女性作家の団体に入りました。

青鞜社をつくり、「青鞜」を創刊した

1911年に青鞜社をつくり、女性向け文学雑誌「青鞜」を創刊して、女性が自分自身の考えをしっかりとつよう、うったえました。創刊号にのった、雷鳥の「もとは、女性は太陽だった。しかし、今は月である。」という論文は、その後の女性解放運動の道しるべとなりました。1915年に「青鞜」の仕事を伊藤野枝にまかせ(1916年廃刊)、1918年に結婚しました。

新婦人協会に入り、治安警察法の修正に成功した

1919年、市川房枝・奥むめおらと、新婦人協会をつくりました。この協会の運動によって、1922年に、治安警察法の中の、女性が政治的な集会を主催したり、参加したりすることを禁止した部分を、廃止することに成功しました。

女性の解放と地位の向上、世界の平和をうったえ続けた

その後は、女性参政権運動に加わったり、貧しい家庭の女性のために活動したりしました。第2次世界大戦後は、世界連邦建設同盟に加入したり、国際民主主義婦人連盟副会長、日本婦人団体連合会会長などをつとめました。そして、1971年に亡くなるまで、女性の解放と地位の向上、世界の平和をうったえ続けました。